

秋田県男女共同参画情報誌

LaVita

ラ ヴィータ:イタリア語で“生命・人生・生活”



vol.90

2015年10月31日発行



第1回

[特集1]

輝く女性を応援する 秋田サミット

[特集2]

異文化を通して多様性に気づく

トラベルデザイン株式会社 須崎 裕さん(秋田市)

◎ ラ ヴィータな人々
あきたイクメンネットワーク

◎ 男女イキイキ職場訪問
株式会社 秋田ふるさと村(横手市)

◎ 市町村情報(横手市)

◎ INFORMATION



パネルディスカッション

2部構成のパネルディスカッションでは、日本で先進的に女性の活躍を推進する7企業の代表がパネリストとして登壇。女性の活躍がいかに企業や地域の発展につながるか、各社の具体的な実践例を交えながら、意見交換が行われました。その一部をご紹介します。



左から後藤氏、志賀氏、土佐谷氏、八木氏

▼パネリスト
 後藤 綾子 カルビー株式会社 執行役員
 志賀 俊之 日産自動車株式会社 取締役副会長
 土佐谷 政孝 株式会社アール・デービス 執行役員
 八木 洋介 株式会社リーガル・パートナーズ 執行役員社長
 ▼コーディネーター
 幸子 日経P&I総合研究所 執行役員



左から籠田氏、斉藤氏、関根氏

▼パネリスト
 籠田 淳子 南ゼムケンサービス代表取締役
 斉藤 永吉 株式会社銀行 取締役頭取
 関根 近子 株式会社資生堂 執行役員常務
 ▼コーディネーター
 幸子 日経P&I総合研究所 執行役員

「地方創生のカギは女性たちにある！〜街と地域を変える女性たちの力〜」

Q女性の活躍でどんな企業成長が起るのか。

・女性が少ない建築業界で「家族をよく知る」生活者の視点が会社を強くしている。(籠田氏)
 ・優秀な人材が集まりやすくなる。育児・介護経験が商品開発の糧になる。(関根氏)

Q女性の力で街や地域が変わったと思う点は。

・情報量を持つ若い女性たちを巻き込むと、地域に受け入れられやすくなる。(籠田氏)

Q経営トップはどう語るのか。どういう仕組みで女性リーダーを増やしているのか。

・女性の活躍なしに企業の未来はない」と経営トップが断言。トップダウンとボトムアップの併用。ダイバーシティの推進。(後藤氏)

Qダイバーシティ推進のきっかけは。

・同じ人たちの集まりではグローバル市場には勝てない。新しいアイデアや力が入ること。企業は新しい世界を生み出せる。(八木氏)

・多様性がなければイノベーションは起こらない。違う文化や意見を受け入れることで時代の変化に対応している。(志賀氏)

「第1回」
 輝く女性を応援する
 秋田サミット

特集

2015 8/8-9
 あぎたの女性
 活躍推進会議
 キックオフイベント

「あぎた女性の活躍推進会議」の設立PRと社会的機運の醸成を図るため、8月8日・9日の2日間、秋田市で官民連携による「第1回輝く女性を応援する秋田サミット」が開催されました。

未来の秋田を確かなものに

サミットでは、有村治子女性活躍担当大臣(当時)の基調講演が行われたほか、平成26年度内閣府「女性が輝く先進企業表彰」で内閣総理大臣賞を受賞した(株)北都銀行による講演や意見交換が行われました。

人口減少や少子高齢化が深刻化する秋田県では、女性の活躍推進を政策の重要な柱のひとつに位置づけています。女性の能力を最大限に引き出し、働きやすい環境を整え、実情に応じて取組を加速化することは、待ったなしの課題です。日本の将来、秋田の未来を考えていく上で、このサミットの開催には大きな意味があります。

「女性の活躍が地方を元気にする」

有村治子大臣

女性活躍 行政改革 国家公務員制度担当
 内閣府特命担当大臣
 (少子化対策 男女共同参画 規制改革)

講演において、人口減少時代に突入した日本の将来予測「増田レポート」から「2040年までに秋田県内の25市町村のうち24の自治体が消滅の恐れにある」というデータを紹介。「社会の持続可能性がこれからのキーポイントになる」と指摘されました。

また「秋田で働く女性の正社員率は全国トップクラスなのに、管理的職業につく割合は全国第44位」であることにも触れ、秋田の企業において、戦略的な意思決定ができる女性

リーダー育成の必要性を強く訴えられました。

「働き方を変えることは、地域の活性化につながる。女性が暮らしやすい、働きやすいと感じられる社会づくりは、女性のみならず、みんなにとってメリットを実感できるようにするのが成功の鍵」という言葉が印象的でした。



時間労働の是正。(関根氏)

＊課題の多い企業の先駆的な女性の活躍事例を参考に、それぞれの地域や企業から発信してほしい。(籠田氏)



コーディネーター 籠 幸子氏

「女性が活躍する企業は持続的に成長できる〜女性活躍、その戦略と推進のポイント〜」

・変化をチャンスとして捉え、環境や状況をつくり出し継続することが大切。女性が入ること。会議の効率が上がり、生産性の向上につながっている。(土佐谷氏)

Q女性の活躍推進を阻害する要因やその解決策は。

・阻害要因は、変革が苦手な「おじさん」と管理職になりたがらない女性自身。解決策はトップの強烈なリーダーシップとスピード感。外部からの評価・数値目標によるコミットメント。女性が自発的に活躍できる環境づくりに男性たちも積極的に関わって活力を引き出すこと。(八木氏)
 ・女性が発言しやすい環境をつくること。管理職になっていく。実際管理職になってみると仕事の面白が出てくる。た

とえできなくても再チャレンジやリ直しの機会を提供する。(後藤氏)
 ・育児など両立支援をすることで、男性は女性にやさしい仕事を与えやすくなる。勤務時間が短縮しても仕事の質を落とさずに、キャリアを磨くことが必要。(志賀氏)
 ・長時間労働をやめないことには解決しない。いかに短い時間で答えを出すか。きちっと仕事をしている人をきちっと評価する。その習慣が身についている人を管理職に登用することがこれからは必要。(八木氏)

＊女性活躍推進法の成立で、企業における女性の活躍が数値で可視化されることにより、今後、消費・就職・投資活動等の市場原理が働くでしょう。(籠田氏)

※ダイバーシティ：多様な人材の活用・登用

2日目の講演会の様子

輝いて生きるプラス思考の仕事術

(株)資生堂 執行役員常務 関根 近子さん



女性が活躍することによる企業メリット

(有)ゼムケンサービス 代表取締役 籠田 淳子さん



インタビュー

インタビュー①

「控えめ」でしょうか？

場を読む空気相手の心の動きを察知する能力に長けているのだと思います。「謙遜は美德」といった言い伝えられている土壌を打破していくのは一人の力では難しいのですが、同じ志を持つ人が何人か集まることによって大きな力になります。サミットは一つのきっかけ。このチャンスを自分の事としてとらえ、共感した人同士でグループを作って、周囲の意識改革へと広げていくことが、大切なのではないのでしょうか。

インタビュー②

地域で女性が輝くには何が必要でしょうか？

先代から経営を受け継ぐ人も少なくないと思いますが、親と同じことをする必要はありません。私は家族の集合体のような会社経営をキーワードにしています。働く女性の中には「自分は他人と違う」と思っている方がいるようですが、新しい情報や創造性を生み出すにはそれが重要ですし、人と異なる常識を持っていることでイノベーションが起きると思います。秋田の人は本当に肌がきれい！地方創生の切り口の一つとしても「美人」を取り入れた方が絶対いいですよ！

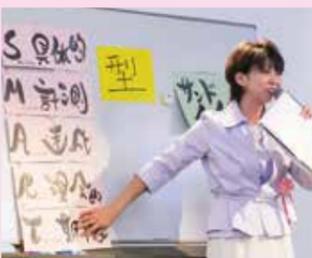
【同日開催】

講座「女性が起業するには」

県内女性ネットワーク団体「ヴィーナスクラブ」代表の竹下香織さんと、秋田市で親子の集いの場「陽だまりサロン」を主宰する若松亜紀さんの講座が開かれました。「は行」の返事はあ、ふうんなどを使って「共感力」を養う「竹下さん」やりたいことは人に伝えると実現に近づく「若松さん」など、講師の言葉に参加者はメモをとったりうなずいたりしながら、それぞれの夢を思い描いているようでした。



竹下香織さん。女性たちがつながり、思いを共有する場「ヴィーナスクラブ」の会員は約400人。



若松亜紀さん。自宅に開設した子育てサロンで、ママたちのサポートに取り組む。

特集 2

異文化を通して多様性に気づく

トラベルデザイン株式会社 代表取締役社長 須崎 裕さん (秋田市)

乗船客約2,500人を乗せた英国の大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が秋田港に寄港した8月31日、多くの外国人が秋田市内を観光しました。英語でその案内にあたったのが、須崎さん率いる浴衣姿の男女12名。そのうち11名が女性です。「フェイสบックで通訳を募集したら、圧倒的に女性の申し込みが多くて。主に国際教養大学の学生なんです。女性の方がコミュニケーションに積極的なようです」

個人の自由を共有し、地域との協働で案内

秋田市内のホテルロビーに特設された観光案内所では、「秋田のお酒を試飲できる所はどこ?」などの、様々な問い合わせに応じました。「必要と思われる交通や主要観光地などの基本情報は、事前に共有するようにはしていますが、より細かい秋田の情報には、当日現地で地域住民やガイドと協力して、より良い案内を目指す



秋田港とホテルとの間をシャトルバスが10分間隔で運行された

女性の能力発揮には、気づいた人が動くこと

当日行われた地域の観光ガイドとの千秋公園ウォーキングツアーも好評でした。

ガイドの皆さんの説明を海外のお客様は、熱心に聞いていました。「異文化の人に伝えようとする事は、地域の魅力や自分の強みを再発見することに繋がります。こうした機会や経験によって地域や自分の価値に気づく

しています」と須崎さん。その一人、大塚由希さん(教養大2年・神戸市出身)も、「今回、秋田のことを色々調べてきました。地域の皆さんとともに、たくさんの方の良さを伝えたいと思います」と話していました。

くことが大事ですね。気づいた人が動き出し、お互いにサポートしていくことで、女性ももっと能力を発揮できるのではないのでしょうか」

須崎さんによると、秋田の女性の第一印象は「尽くしている」とのこと。「農家のお母さんたちは来客用の食事の準備はしても、来客との食事には出て来ないで自分たちだけで会話をし、意外にもそれを楽しんでいるようにも見えます。これは今までの習慣でしょう。でも、もし、機会があればぜひ直接異文化を通して多様性に触れてほしい。今後さらに、多くの外国人が秋田にやってくるのは確実。心をオープンにして、本気で向かい合う、秋田流外国人との会話」ができれば、もっと地域も女性も輝くと思います」



Profile

すざき ひろし 須崎 裕さん 1985年生まれ。大阪府出身。国際教養大卒。秋田県で外国人観光客を対象にしたインバウンド(観光誘客)商材を企画。地域住民と一緒に受け入れをしている。



ショッピングや食事も通訳がいてスムーズに。一緒に写真を撮る光景も頻繁に見られた。

家族みんながHAPPYに

子育てパパサークル あきたイクメン ネットワーク



〈普段家事や育児に忙しいママのフリータイムをつくる〉を目標に、秋田で活動するパパサークルの草分け的存在「あきたイクメンネットワーク」は、今年で結成5年目を迎えます。サークルでは、親子で遊べるイベントやホームページからの子育て情報発信などで、パパ友たちの交流の輪をひろげています。どなたでも気軽に参加できる楽しい親子イベントは、月1回程度で開催しています。収穫体験、楽器あそびにバーベキュー…そして今年も簡単な裁縫にも挑戦したそうです。

「5年前は、まだイクメンという言葉さえ珍しく、特別なことのように思われていました。今ではそれがいいかたちで日常に浸透して、ふつうになっできているのが嬉しいですね。代表の本田正博さんは、4人の子どもを持つ、子育て中のパパでもあります。

イクメンによる家事や育児は「ママを手伝う」ではなく「ママと一緒に参加する」。そして、「家族サービス」ではなく「家族と過ごす」。意識をちょっと変えるだけで、家族みんながハッピーに。毎日がさらに楽しくなりますよ」と本田さん。

イクメンとイクボスと、女性の活躍は3点セット

今、秋田ではいろんな分野において輝く女性たちを応援しています。「女性の活躍に欠かせないのは、家庭で、職場で、彼女たちをサポートするまわりの男性たちの存在です。イクメン・イクボス・女性の活躍は3点セットで考えなければ」

「あきたイクメンネットワーク」では、秋田県内各地でイクメン・カジダン^{※2}についてのセミナーや講演も行っていきます。また、中小企業の経営者や管理職を対象としたイクボス研修の窓口にもなっています。詳しい情報はホームページをチェック！子育てを楽しいパパ・ママにとってためになる情報も満載です。



お問合せ▶「あきたイクメンネットワーク」TEL:080-1673-8322(本田) <http://oyako-kizuna.com/>

※1 イクボス
男性の従業員や部下の育児参加に理解のある経営者・上司。

※2 カジダン
家事を楽しみ、積極的にこなす男性。

市町村情報「横手市」

Q 横手市で行われている「男女共同参画フェスティバル」とはどのようなイベントで、開催時期はいつになりますか？

A 「男女共同参画フェスティバル」は、横手市の男女共同参画社会の将来像「一人ひとりが輝き、自分らしく生きられるまち」の実現に向けて、市民の方々の男女共同参画に対する意識の高揚や改革を目的としたイベントです。みなさんにお気軽にご来場いただき、男女共同参画について何か考えるきっかけのひとつになればと、様々な催しやパネル展示などを行います。今年度は、平成28年2月下旬から3月上旬の開催を予定しております。

Q 今年2月に行われた市議会議員研修会「ハラスメント対策の実践と課題」の内容について、詳しく教えてください。

A この研修会は、ハラスメントに対する理解を深めようと議員発案により実施したものです。講師に群馬県立女子大学の佐々木尚毅教授をお迎えし、ハラスメントの意味と種類、議会政治が社会を変えたというヨーロッパ諸国の先進事例などを学びました。また、秋田県中央男女共同参画センターの佐々木美奈子副センター長からは、職場におけるハラスメント対策と秋田県の現状について、法律改正のポイントや事業主が講じるべき対策などを学びました。この研修会で佐々木教授は、都議会のセクハラや性差別について「他の誰かがそれはセクハラだ」という発言がなかったこと、「自浄能力がない」と世間から見られたこと、「それはおかしくないか」と言い合える環境があるかないかは議会の品位の問題」と述べておられます。

また、5月8日には再び同研修会で佐々木教授にご講演いただき、男女共同参画が進んでいる国はなぜ出生率が上がっているのか等について学んでおります。

お問合せ▶横手市まちづくり推進部 地域づくり支援課 市民協働係(Y2ぶらざ内) TEL:0182-35-2158

男女イキイキ！ 職場訪問

横手市にある 「株式会社 秋田ふるさと村」に おじゃまします。

【イキイキ職場って?】
イキイキ職場(=「男女イキイキ職場宣言」事業所)とは、秋田県と協定を結び、女性の能力の活用や仕事と生活の調和に取り組む事業所です。平成27年9月末現在で、241事業所が宣言しています。県ではウェブサイトやパンフレットでイキイキ職場の取組内容を紹介しています。

東北最大級のプラネタリウムを持ち、各種イベントでも賑わいを見せる「秋田ふるさと村」。これまで総務課長として職場環境づくりに取り組み、7月には営業部営業企画課長となられた齊藤千秋さんにお話をうかがいました。

育休後、短時間労働の人も

会社のスタッフは正社員、嘱託、パートタイマーを含め46名(うち女性27名)。部課長は7名(男性4名・女性3名)です。家族連れのお客様が多いので、小さなお子さんや高齢者の現場での出迎えは、女性の方が親しまれるようです。男女にこだわらず意見を出し合い、「こは女性が強い職場」と言われています(笑)。女性が表に立っていられるのは男性のおかげ。それぞれの性格や個性を活かし、開放的な雰囲気の仕事をしています。

現在、社員とパートタイマーの女性2人が育休を取得中です。そのうち社員の方は、9年前に第一号として取得し、当時はパートタイマーでした。契約期限がある中で取得していいものか本人は迷ったようですし、会社としても初めてのことで不安でしたが、「職場の席をちゃんと空けて待っているよ」と伝えるなど、連絡を密に合い復帰しました。育休中はアルバイトで補充、それがで

きない業務についてはスタッフで分担しています。給付金等の通知をする時に、職場の様子も知らせています。また、本人も子連れで事務所遊びに来てくれるので、通知のやり取りだけではない連帯感があります。子どもの看護休暇は男性も取っています。時間制なので、病院に連れて行くのも数時間で済みますし、有給休暇も時間制です。育休後、短時間労働に移行する人もいます。夕方1、2時間早く退社できる。働き方が自由なんですね。

仕事も家庭も充実させ、 お客様に優しい会社

2ヶ月後に学校行事があるとか、この日は休みが必要という前提があると、お互い調整してやっていく環境ができています。男女にかかわらず、一人ひとりがキャリアアップし、仕事と家庭の両立を図るということを長くやってきているので、育休取得も当然の想定として定着しています。ただ、本人からは言いにくい気持ちもあると思うので、「お母さんの役割はあなたしかできないよ」と伝えていきます。子どもが関心を持つような事業の企画や、運営上の危険性についても、働くお母さんの視線が大いに反映されています。

これからの課題は、まだ対象者はいま

せんが、介護休業への対応でしょうか。もっと自分たちが家庭も仕事も充実させ、お客様に優しい会社になることを目指しています。

2ヶ月間の育休を取得した 加藤 美穂さん(総務部総務課主任)

昨年12月に女児を出産。産休から育休に入り、まるまる6ヶ月間職場を休みました。

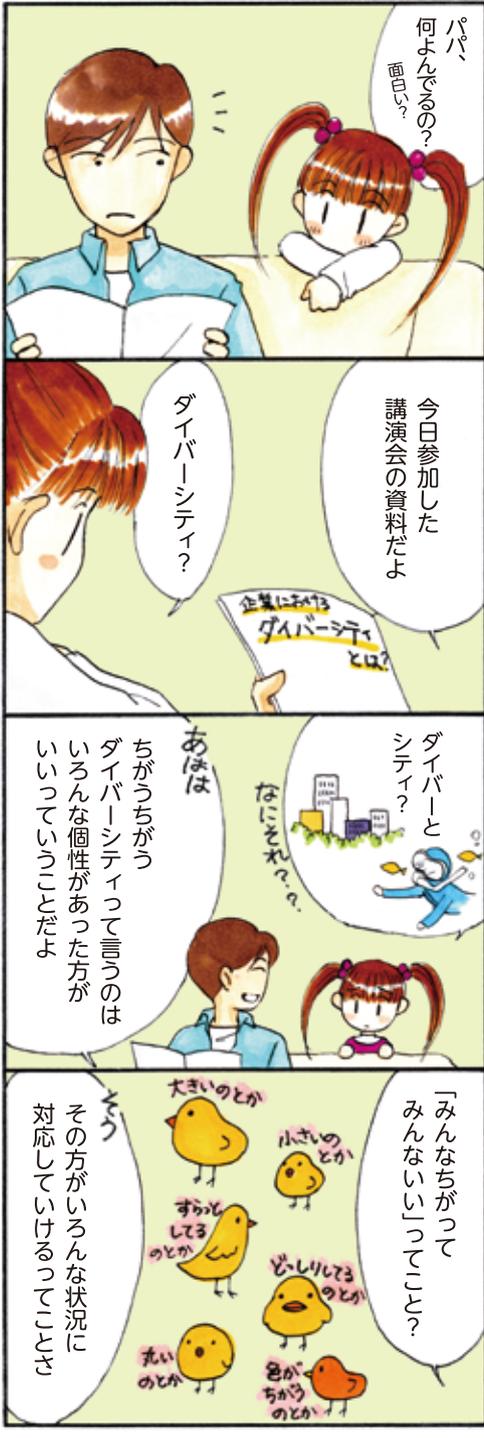
私は経理担当。決算期の3月に休むことについて、周囲に迷惑がかかるのではないかと悩みましたが、齊藤課長から「周りも取っているから大丈夫。子育てで手がかかって大変な時期は今だけだから」と勧められました。育休中は、子育てに専念できました。

4月からの復帰に向けて電話対応など不安になり、3月中旬に復帰の練習に来たこともあります。子どもの看護休暇も取りやすく、家庭との両立がしやすい職場だと思います。



▶Info
秋田ふるさと村
横手市赤坂字富ヶ沢62-46
Tel:0182-33-8800
秋田ふるさと村 検索
<http://www.akitafurusatomura.co.jp>

まいちゃんの素朴な疑問



秋田県内企業も多様な人材を起用して、活性化されていくといいですね。

編集後記

「輝く女性を応援する秋田サミット」で、頻繁に出てきたのが「ダイバーシティ」という言葉でした。同じ人の集まりでは、新しさは生まれません。仕事だけではなく、暮らしの中の多様性も大切にしたいです。

(伊藤 美生)

県内各地で「あきた女性の活躍推進事業」が開催されました。

女性活躍推進フォーラム

◎平成27年8月1日
◎よこてシャイニーパレス(横手市)

講演では、(株)ハナマルキャリア総合研究所 代表 上田晶美氏に、「自分自身の成長を考え、地域や職場になくてはならない存在になるための女性の生き方のヒント」をアドバイスいただきました。



女性の活躍による企業力アップセミナー

◎平成27年9月12日
◎アトリオン(秋田市)

独立行政法人国立女性教育会館理事長 内海房子氏による講演のほか、女性の活躍推進やワークライフバランスに取り組む県内3企業をパネリストに迎え、イキイキと働ける職場について考えました。



女性×仕事フォーラム

◎平成27年9月12日
◎北欧の社公園パークセンター(北秋田市)

一般社団法人ドリームマップ普及協会代表理事 秋田稲美氏による基調講演のほか、女性の再就職・起業についてのワークショップを行いました。



女性従業員向けスキルアップセミナーが県内3市4会場で行われました。

県内企業で活躍されている女性管理職の方から自身の体験談をご講演いただいた後、(株)プレステージ・ヒューマンソリューション専属トレーナー 萩原幸子氏を講師にコミュニケーションスキル等について学ぶ講座を行いました。



女性の起業応援セミナーを開催します。

日時:11月5日(木)13:30~16:30

会場:ルポールみずほ(秋田市山王4-2-12) 対象:起業に関心のある女性

内容:【第1部】13:30~講演

講師:トータルサポートスクール リード学舎 代表 阿部浩美氏

先輩女性起業家の体験談や事業アイデアの発見方法、アイデアを具体化するためのヒントなどを伺います。

【第2部】15:10~起業・創業支援制度について

県内の起業・創業支援機関から利用できる支援制度を紹介していただきます。個別相談会(希望者のみ)15:40~

◎お問合せ:秋田県生活環境部男女共同参画課 TEL018-860-1555

LaVita 編集部

『La Vita』を読んでものご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしております。

TEL 018-860-1555 FAX 018-860-3895

Mail persons@pref.akita.lg.jp

秋田県生活環境部男女共同参画課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号



女性活用の先進的な取り組みが実現できるのは、首都圏の大手企業に限ったことではありません。籠田社長のお話をうかがい、地域でも中小企業でも、意識と挑戦で改革できるのだと勇気をいただきました。

(坂本 佐穂)